

Enhavo	1
大本分科会基調講話..... 三好鋭朗 ..	2
第91回世界エスペラント大会に参加して.....参加者の声	5
ブラジル大会報告	ペドロ・カヴァルヘイド .. 14
ブラジル大会報告	ルーカス・ヤスマラ .. 17
通信添削講座模範解答	裕 大福 .. 19
通信添削問題	20
藤本達生の続きもので読みもので	藤本達生 .. 22
EPA事務局便り.....	26
第92回世界エスペラント大会(横浜)後の行事ご案内	29

2006年8月 新規・継続会員

新規

普通会员：高橋マサ、保科誠治、西巻尚子（新潟）

学生会員：斎藤素郎（大阪）

Multan dankon kaj
bonan kunlaboron!

継続

特別賛助会員：佐々木仁蔵（京都）

普通会员：糸島治（岡山）、辻文子（神奈川）、松本晴子、隅澤聰（京都）、
川地貴子（愛知）、廣井直子（新潟）、宗田敏子（大阪）、内賀義（福岡）

家族会員：松本さちえ（京都）、内賀教子（福岡）

表紙の解説（Klarigo pri kovrila bildo）

出口 瑞（DEGUĈI Micugi）

「和風・散椿の庭」“Japaneske: ĝardeno kun (disfalema) kamelio”

インドネシアの2言語体制をヒントにEUでエスペラントを



エスペラント普及会常務理事
三好鋭郎(みよし・えつお)

昨年のリトアニアでの世界大会時、欧州エスペラント連盟の事務局長でスロベニアのZ・ティスラー氏から、熱心に勧められた一件があります。

それは、インドネシアにはジャワ語、スンダ語、マレー語など、それぞれ6,000万人、2,300万人、1,800万人が使っており、さらに740を超える島々の言葉

があると言われます。そのため国民が意思の疎通に欠くことから、70年ほど前に言語学者を集めて、最も規格化されたマレー語を主体に品位を上げつつ人造語を作りあげました。

1字1音、6つの母音、アクセント無し、子音と母音を組み合わせ、語順や時制法至って簡単で、例えば、「行く」はPERGI(ペルギー)で、「昨日」を足すと過去となり、「明日」を付けると未来になります。接頭接尾語によって新語が増殖でき、インドネシア語と呼ばれる人造語の構成は、アジア版のエスペラントを彷彿させるものがあります。

スカルノ大統領は、「一つの国、一つの民族、一つの言葉」を独立悲願の核として、この人造語を全国民に義務教育で徹底的に教え、極めて短期間に全国民の意思の疎通を可能にしました。今日では、世界で5番目に人口の多い国語となっています。

2億3,700万人の大国が人造語を共通語とし、地方語を併用して意思の疎通を図っている例は世界になく、その成功物語をフランス人に伝達できれば、英語に完全に敗北したフランス人の焦燥感に火がつき、国民や指導者がエスペラントの可能性を認めるのではないかと要請されたのです。

帰国後、国立大阪外国語大学インドネシア語科を卒業された、人類愛善新聞編集記者の松本公夫さんから各種の情報を頂きました。

そして、「インドネシア大使館に相談しては」との提案がありました。しかし、一方通行になるので、私は「大使に手紙を出してもらちがあかない」と判断しました。

偶然ですが、東欧5カ国でエスペラントの全面広告を出稿した9月26日（欧州言語の日）に上京した折、五反田の同大使館に飛び込み訪問を試みました。突然に田舎者がやって来て「大使に合わせる」と言うのですから、「とんでもない変人が現れた」と、当然のように守衛にシャットアウトされました。

彼は何度か上司に電話をしましたが、「予約の無い人は受け入れできませんので、お帰りください」の一点張りでした。私は世界の言語問題から説き始め、門番を口説き落とそうと粘りに粘りましたが、秘書に会うことすらできないと言うのです。ビザの申請者が何人か通り過ぎるのを待ち、「欧州25カ国のエスペラント連盟の期待を担って来ており、私は帰れません」と彼を拝み倒しました。10分以上粘ったかいがあって、とうとう3階の秘書室に案内されたのです。

部屋に入るなり、「Hと申します。私は今日とっても忙しいので、国家として成功した物語を、フランスの”ル・モンド”紙の全面広告で語ってほしいのです」と頼みつつ、EU諸国で展開した15のエスペラント広告を広げつつ、説明を続けました。

50歳代の彼女は次第に「忙しい」とは言わなくなり、私の話に何度となくうなづきました。そして、「お話は人類全体の問題ですねえ。それでは三好さんが直接、大統領に手紙を書いてください」と言われ、「返事がもらえる可能性が、全く無いという訳でもない」と、独り言をつぶやきました。そして、大統領や大使の名前・住所をタイプアップし、「資料のコピーを大使にも送ってください」と、私を出口まで見送ってくれました。

私が守衛を突破できたのは、700キロ離れた四国からわざわざ飛行機で飛んできて、しかも車いすに乗って訪問したことが、守衛や上司を動かせたと感じています。次の関門は、私の手紙をユドヨノ(Yudhoyono) 大統領がどう判断するかにかかっています。大統領が”イエス”の判断を下せば、多くの新聞読者やフランスの指導者が、EUの共通語としてエスペラントに新たな認識を持つことになるでしょう。

インドネシア大統領へのお願い状

大統領宛の手紙は次のような内容です。

私の人生目標は、手袋やバッグならびに車いすの会社の経営をすることと共に、エスペラントを母国語の次に学ぶ第2言語として、全人類の共通語にするための活動に全力投球していること。

エスペラントの創始者ならびにその誕生から歴史、その特徴について20行で説明。

EU25カ国では20種の公用語を公認していながら、実質的には英語化しつつある現状を26行で解説。

1921-1923年にかけて、国際連盟事務次長だった新渡戸稲造が、44カ国の全加盟国に働きかけ、エスペラントを欽務教育で教えることが決議されていしたが、フランスの拒否権発動によって、国際語をフランス語にしたいという意図は達成されず、英語がEUの主要言語になってしまったこと。

イタリアのJ・テルアルバEU議員による議会での提案を説明し、2004年4月1日のストラスブルグでのEU議会で、約43%がエスペラントを支持したが、残念ながら否決されたこと。

貴国が人造語のインドネシア語と、740種にもものぼる地方言語を駆使し、2言語国家として世界で唯一の成功国であることから、フランスやEUの新聞紙上などにインドネシア大統領に登場いただいて、その成功例を述べていただきたいとお願いしたこと。

フランス、イタリア、ドイツなどEU諸国で、エスペラントの効用を宣伝する新聞による全面広告を、13カ国で15回実施したことと、そのコピーを添付したこと。

私の社歴、エスペラント歴、世界連邦運動歴を添付。

上記は、前述の松本氏によってインドネシア語に翻訳されましたが、細かい点で自信が無いとのことでしたので、大阪のインドネシア領事館に相談したところ、領事自身が私の手紙を読まれ、「是非協力したい」との申し出を受けました。そして、完全なインドネシア語に校正いただき、4月の中旬に本国に発送されています。

また、7月10日に大阪の領事に状況を問い合わせたところ、既に大統領の予定のリストに載っているが、1、2カ月待つてほしいとの返事を頂きました。

そのおり、「もし了解を頂けるならば、その前に大統領閣下とのインタビューをさせてもらえないかとお願ひし、ジャカルタ駐在の世界のジャーナリストとの記者会見を実現させてほしいと要請しました。もし、記者会見が実現できますと、世界の英語化は数カ国の英語国にとって極めて都合がいいのですが、その半面で大多数の人類に未曾有の労力負担を押し付けられており、民主主義や正義に反している不平等性が世界に知らされます。そうなりますと、日本の財界からの資金集めに道が開ける可能性もあり、EU25カ国での広告展開も可能となってまいります」とも伝えました。

実際に、日本全国の45社もの地方紙にニュースの配信をしている時事通信社などから、もし、大統領とのインタビューが成功すれば、ジャカルタでの記者会見の要望を受けています。

また、「世界中の人々が、平等で簡単に習える一つの共通語と民族語が併用できることによって、バイリンガル化することは、有史以来の人類の夢であり願ひであります。そして、世界平和の礎を築く起爆剤となります。貴国の貴重なご経験が世界に広く知られ活かされることは、貴国の成功が世界から永遠に称えられることを意味します。その日が一日も速く実現できますよう、どうかよろしくお願ひいたします」と、大阪の領事に懇願いたしました。

大変に壮大なお話を致しましたが、それもZ・ティスラーさんの提案があったからこそ、想像以上の可能性に発展しそうになってまいりました。彼の提案にこころから感謝いたします。また、大統領宛の資料のコピーを送った東京のインドネシア大使からも、「協力を惜しまない」とわざわざ電話を頂いており、大阪の領事の翻訳などの協力ぶりから判断して、この会見が実現できる可能性は高いと感じています。しかし、何回もの大地震とか、東チモールの独立運動などが噴出しており、もしかして大統領の時間が取れない可能性も考えられますが、全力を尽したいと思っています。

さらに、大部分の日本人や世界の人々はインドネシアが2言語国

家として成功した国とは全く知らず、しかも、エスペラント同様、共通語は人造語であります。「エスペラントには文化が無いし、人造語は国際語に使えない」と言っている多くの欧州人たちに、またとない説得力のある新情報となります。大部分の欧州人は、エスペラントが自然語の問題点を徹底的にそぎ落とした、最も合理的で美しい言葉だと知ります。

実は、この9月26日の「欧州言語の日」に、欧州エスペラント連盟と世界エスペラント協会の協力を得て、フランス語を話すEU議員でフランス人78名とベルギー人24名をブリュッセルのホテルに招待し、「共通語について討論する夕食会」を計画しています。はたして何人に参加頂けるか判りませんが、一つの道が開かれる可能性に賭けたいと思っています。ベルギーの皆さんには大変お世話をお掛けしますが、どうかよろしくお願いいたします。

EUの誕生はただ一度の、最初で最後のチャンスです。もしもEUが公用語にエスペラントを採用するならば、瞬く間に世界の国々が追随することになり、エスペラントは最終勝利の旗を掲げることができると思います。

大本分科会



第 91 回エスペラント世界大会に参加して

「真夏の夢」のような旅に感激

牛腸三春（EPA 理事）

私たちが8日間の旅行を終えて全員無事に関西空港に降り立ってから5日後の8月10日、ロンドンで航空機爆破テロ未遂事件が発覚し、世界中の空港で大混乱が発生した。私たちの参加団は出発前に渡航安全祈願祭を執行していただいたが、もしも世界エスペラント大会期間中やその前後にこの混乱が起きていたら、大会自体も大きな影響を被ったと想像され、神さまのご守護を身にしみて感じさせていただいた。

世界大会ではいつものように、数千人の参加者の間でただひとつの言語を用いた情報の交換が行われている事実を目の当たりにし、「ラ・エスペーロ」大合唱のころには高齢者といえども胸が熱く高鳴る。一方、今回は出発前突然に、大本分科会での司役を仰せつかり、自信は無いがさりとて「進展主義」を教えられている大本信者として逃げるわけにも行かず、緊張のあまりやや平常心を失っている自分を感じていた。だが、これまで幾度と失敗や恥をかいた経験において誰にも引けをとらない自信はあって、どうにか1時間半の分科会は終わった。

その日の夕食会では、普段飲まないワインも頂き、何と楽しかったことか！ザレスキ・ザメンホフ博士や顔見知りのバルバラ・ピエトシャク女史など、エスペラント界を代表する方々をお招きしたエスペラント普及会主宰の晩餐会である。ただ、語学力の低さと話題不足を痛感させられたひと時でもあった。20年早く勉強を始めておけばよかった。

お楽しみのエクスクルソ！は、超ベテラン添乗員のおかげで、充実した観光を満喫できた。まず、フェレンツェではウフィツィ美術館の見学ができたこと。幸運にも午後のその時刻、入館待ちの行列が短くなっていた。数十分後私は、若いころから憧れつづけたルネッサンス時代を代表する本物の絵画の前に立っていた。

また、大会の合間にはピサにも足を伸ばすことができた。斜塔と教会の美しいコントラスト、着工から200年もかかって完成し、

第91回エスペラント世界大会に参加して



ピサの斜塔前で（右端筆者）

ガリレオ・ガリレイの落下物の実験でも知られる史跡である。

また、美しくもロマンチックで、少し物悲しい水の都ヴェネツィアの旧市街。街全体の沈下はやや緩やかになったとはいえ、いまも100年に3センチ沈みつつあり、大潮の時など人の腰まで海水が上がってくるサン・マルコ広場。回廊風に店舗が並ぶ中に世界最古というカフェ・

フロリアンでは、フレスコ壁画を眺めながら現代のコーヒーを飲む中高年日本人男性3人連れの姿があった。そして、夜の運河を行くゴンドラ。

最後は、中世と現代の同居する大都会ミラノ。オペラファン憧れのスカラ座、ここで「マダム・バタフライ」を聴いてみたらどんな感じがするだろう。街の中にくっきりと光と影を描き分ける壮大なドゥオーモが聳え立ち、その中ではミサが始まろうとしていた。8日間はまさに「真夏の夢」のような旅であった。



エスペラントは“いいものだ”と実感

井上弘子

今回、初めて世界大会に参加しました。開会式で印象に残ったのは、各国代表の挨拶です。次々と壇上に立たれるので、たくさんの方から集まっていることが一目で分かりました。難しいことは発言されないで聞き易く、簡単で短い挨拶ほど参加者の受けが良く、面白くてとてもなごやかな雰囲気でした。

大本分科会では、私はチラシ配りのお手伝いをしました。開会までに会場入口や前庭を歩いて、一人一人に手渡しました。今思えば、自分からEsperantoで人に話し掛けたのは、この時だけでした。「二年前の北京大会の時、綾部へ行きましたよ」と言う人や、「昔、大本の人と文通していたわ」と親しく話し掛けてくださる人

もいて、とてもうれしかったです。

それと同時に、こうして世界大会の場にいるということは、初めてだとか、不慣れだとかに関係なく、oomotano で esperantisto として見られているのだということにも気が付かされました。その夜の夕食懇親会では、ザメンホフ博士のお孫さんを初



筆者

め、多くのお客さまとご一緒でした。どれだけ著名な方々なのかということがよく分からない私でしたが、この会に同席させてもらえたことは、きっととっても幸せなことだったんだろうと思います。

世界大会に参加したといっても、実のところ日程の大半はイタリア観光を楽しんでいました。おいしいものをたくさん食べて、歴史のある、美しいものをたくさん見ることができました。寝不足も時差ボケも忘れて、いつもみんなで元気に歩き回った旅でした。もっと Esperanto での交流を楽しみたいと思えば、別の参加の仕方もあるとは思いますが、「Esperanto はいいものだ」ということを実感できただけでも参加して良かったと思います。



初 UK

上山小草

エスペラントを始めておよそ 1 年、今回が初めての世界大会参加となりました。

到着後、大本分科会が行われるまでは、分科会の宣伝に加えのんびり周辺の観光をし、フィレンツェを堪能しました。大会参加も浴衣だったのでとても多くの方から話しかけてもらい、分科会の宣伝にもなったようでした。分科会は、とても落ち着いた雰囲気の中行われ、私は紹介内容の半分も分かりませんでした。さぞ良いお話をされているのだろうと想像を膨らませていました。

第91回エスペラント世界大会に参加して

3日間はあるという間に過ぎていきました。問題は、その後でした。エスペラントのみの中に1人残ってしまったのですから！

まず8月3日はふらふらと会場へ行き、おもしろそうだった3つのクラスを受講しました。2時間、ハンガリー



開会式会場で（中央が筆者）

の先生の授業を受け、1時間 $\hat{c}e$ -metodoの授業を受けました。そして最後に参加したクラスで一緒になった、同郷の先生とお昼をご一緒させて頂きました。会場近くはスリの集団だらけで、1人では動けないと思っていた私は、本当にほっとしました。神様に心から感謝して、無事食事を済ませ、また会場へ。先生とは別れて、その後若者向けのプログラムに参加しました。なんとなく参加したのですが、ここでは何人か友達ができ、アドレスを交換してその日は終わりました。

そして次の日、同じコースで授業を回ると、最後の授業にたまたま昨日友達になったイタリアの若者がおり、今度は彼に場所を案内してもらって食事をとりました。彼はエスペラントを始めて1週間も経たないというのですが、とにかく喋ろうという気構えがすごく、単語が多少分からなくても十分にコミュニケーションがとれるのだと感じさせられました。と言っても単語不足ゆえにとてもくやしかった思い出もあるのですが、それはまた今度。そして彼にコーヒーを1杯ごちそうになった私は、来年の横浜UKのプレゼンテーションを聞き、各国の音楽を楽しむプログラムに参加し、私の初UKは終わりました。

今回非常に感じたことは、話すにはやはり気構えです。そして、日本をもっと良く知っておくことが必要だと痛感しました（私は友人に金沢の人口を10倍多く言ってしまったのです！）単語は頭に入れておけば、いざという時に出てきてくれるものだと思います。来年UKが楽しみです。Koran dankon!

私は今回、世界エスプラント大会に参加させていただき、改めて世界は一つに、そして言語も一つになると本当に世の中は平和になるだろうと強く思いました。私はエスプラント語は初心者で実際話している内容までは全く分からなかったのですが、肌の色が白い人も黒い人も、黄色い人も



左端が筆者

も・・・たくさんの国の人々がひと所に集まり、同じ一つの言語を話しているということに不思議な感じがしたと同時に、とても感動しました。

3日目の大本分科会では、私は案内係として、また鎮魂の型の指導として務めさせていただきましたが、分科会に多勢の人々が足を運んでくれて私も嬉しく思いました。また熱心に大本の歴史についてのスライドを見る人々や、真剣に鎮魂に取り組む姿、一緒に愛善歌を口ずさんでくれる人など、そういう世界各国からここに集まってきた人々の姿を見て、自分も初心に戻った気がして、そしてこうして大本がまた少しでも世界に広がっていき、少しでも平和の輪が広がればいいなと素直に思いました。

バー口では、肝心のエスプラントを話せない私は軽くお互いの自己紹介した後の会話が續かず大変残念な思いもしましたが、同じ参加団の人の協力の元、同じ年頃の人とも少し話したり、いろんな国の人々と交流することができ、自分の世界観が広がったような気がしました。

今回世界エスプラント大会と言いながらも、自分は「お客様」的なところがあって、完全に受け身で、なかなかエスプラント語を話せず、どちらかと言うと、観光重視みたいな感じになってしまいましたが、大変有意義な時間を過ごすことができました。今回

第91回エスペラント世界大会に参加して

のことを踏まえて、この経験と反省を活かし、次の横浜での世界エスペラント大会に向けて頑張ろうと思いました。そして次回こそ一人でも多くのエスペランチストの友人と語り、自分の世界の輪を広げていきたいと思いました。

最後にこんな未熟で、初心者私を参加団に参加させていただけたことに深く感謝申し上げます。Koran dankon!



12回目の世界大会参加で得た忘れ難い思い出

佐藤ミネ

私が初めて世界エスペラント大会に参加したのは、1989年のイギリス・ブライトンからでした。エスペラントを十分に話せないにもかかわらず、同大会に参加し続けて今年で12回目。なぜ、これほどまでに世界大会参加に執着しているのか、自分でも不思議なくらいです。



愛善歌練習（右が筆者）

ただ、最初から、「少しでも大本分科会開催のご奉仕をさせていただければ」と願って続けてきたことですので、神さまのお許しを頂いているのだらうと自分では密かに納得しています。

今年のフィレンツェでの大会は、比較的ゆったりと過ごせて良かったのですが、私のスーツケースが3日間行方不明で、いらいらさせられました。その後、スーツケースも届き一安心したものの、今度は大本分科会の「閉会宣言」のお役のことを思うと、急に心配になってきました。

これまで、お仕舞や接茶などで舞台に出させていただいたことは何度かあったのですが、今回のご用は私にとってまったく未知の世界でした。しかし、今では良い経験の場を与えて頂いたと神さまに感謝しています。

分科会当日の午前11時半、大会場の前庭で参加団一同そろって「愛善歌」の練習や、私の閉会宣言の発音をチェックしてもらい、いよいよ本番。おかげさまで分科会は予定どおり順調に進み、最終プログラムの愛善歌合唱、閉会挨拶、閉会宣言へと続くはずだったのですが、全員で合唱を無事終え一呼吸ついていると、急に出演の変更が告げられ、私は再び会場の舞台に慌ただしく引き戻されてしまいました。

事前に「マイクの前に立って、会場内を見渡してから、ゆっくり宣言文を読みだすと良いですよ」と教えられていたにもかかわらず、緊張のあまり初めの一節が出るまでが非常に長かったように思われ、後のことはあまり覚えていない。こんなにも緊張させられたのは久しぶりのことで、分科会が終了してからもしばらくは、何も手につかなかったことは忘れ難い思い出となりました。

今回のエスペラント普及会のツアーは参加者が少人数だったこともあり、自由行動ができてうれしく思いました。中世の香りが色濃く残るフィレンツェの市街や斜塔で有名なピサの町、そしてベネツィアの美しい夜景、ミラノ観光などを通して楽しい思い出がたくさんできたことを有り難く思います。今回、お世話いただいた皆さまに、心から“コーラン・ダンコン！”



Parolo en la Fakkunsido de Oomoto
je la 91-a UK

Pedro Cavalheiro
Prezidanto de Brazila Esperanto-Ligo

Karaj gefratoj! Mi venas al vi, nome de Brazila Esperanto-Ligo (BEL), bedaŭrinde ne persone, por esprimi nian dankon kaj bondezirojn al la kunveno de Oomoto.

Jam delonge ni, esperantistoj, konas la apogon de Oomoto al nia amata lingvo internacia. Tiu apogo venas preskaŭ de la tempoj de Zamenhof aŭ pli precize de la tempo de la majstro Onisaburo Deguĉi, la Kunfondinto de Oomoto, kaj la majstro Hidemaru Deguĉi, la Tria Kunspirita Gvidanto de Oomoto, en 1923.

Sed, ĉi-jare nia Brazila Esperanto-movado ekkonis ankoraŭ pli bone je Oomoto, malgraŭ ĝia ĉeesto en Brazilo ekde 1924, ĉar la sidejo de Oomoto Internacia translokiĝis al nia lando. Pli ol tio, ni spertis la apogon de Oomoto al nia Brazila Esperanto-movado.

Pasintjare s-ino Kurenai Deguĉi, la Kvina Spirita Gvidantino de Oomoto, donacis proprarimede pli malpli 1450 EU, laŭ la nuna kurzo. Krom tio ŝi donacis ankoraŭ iom pli da mono por aliaj 3 esperantaj institucioj.

Kiel vi certe scias, apogo financa ja estas grava por ĉiuj. Imagu pri institucioj en landoj malriĉaj. Sed, tiu apogo de via spirita gvidantino estis ankoraŭ pli oportuna... Brazila Esperanto-Ligo kreis konkurson por

instigi la gejunulojn lerni Esperanton. Temas pri la konkurso por BEJO-Atafleo en Eŭropo. La vorto BEJO estas mallongigo de "Brazila Esperanto-Junulara Organizo", kiu estas, ekde tiu ĉi lasta brazila kongreso, la juna sekcio de Brazila Esperanto-Ligo. Ni dankas tion al la strebo de la estraro de BEL, kiu sukcesis kunfandi la laborojn de la junuloj kaj de la plenkreskuloj en nia lando.

Por partopreni la konkurson la junulo devas verki eseon pri temo antaŭ difinita de la estraro de BEL, kaj paroli pri sia verko antaŭ juĝantaro elektita de la Eduka Komitato de BEL. La verkanto ricevas vojaĝpremion al Eŭropo, kie dum 5 monatoj li devas paroli pri Brazilo al ses Esperanto-klubo kaj partopreni kurson pri io utila al sia profesia kariero. Resume temas pri tio.

Ĉi-jare la temo de la konkurso estis "Religiaj Baroj". La partoprenintoj verkis ne pri ajna religio, sed pri la socia kaj homa problemo de la antaŭ juĝaj baroj inter homoj de malsamaj kredoj. BEL proponis tiun konkurson malgraŭ la financaj malfacilecoj nunaj kaj, kiel kompenso al niaj streboj, aperis apogo de kelkaj benataj personoj de benataj institucioj kiel Oomoto kaj Bieno-Lernejo, Bona Espero.

Tiel BEL destinis la monon donacitan de ŝia Moŝto s-ino Kurenai Deguĉi por parte subteni tiun konkurson. Tiu donaco, fakte, kuraĝigis nin ne rezigni por realigi la konkurson dum la malfacilaj momentoj. Via spirita gvidantino ne sciis pri la konkurso, sed sendis helpon

ĝustatempe! Ĉu Dia inspiro? Mi kredas, ke jes. Iel ajn, ŝi helpis nin. BEL realigis la konkurson okaze de nia brazila kongreso en julio kaj jam havas la unuan BEJO-Ataŝeon, kiu vojaĝos al Eŭropo.

Venontjare, en la 42-a Brazila Kongreso de Esperanto, nia unua BEJO-Ataŝeo prelegos pri sia sperto en Eŭropo. Estos la ora ŝlosio kiu fermos la unuan jarcenton de BEL kaj malfermos la duan jarcenton en la urbo Rio de Janeiro.

En ĉi-jara Brazila Kongreso de Esperanto ni spektis la salutmesaĝon de via Spirita Gvidantino: bela mesaĝo parolita en bela Esperanto. En tiu mesaĝo ŝi diris: “ni, esperantistoj” kaj nun estas kiel esperantisto ke mi salutas al vi ĉiuj kaj speciale al ŝi, kiun mi konis persone en Braziljo.

En la urbo Kampinaso, dum ĉi-jara Brazila Kongreso de Esperanto, mi dankis publike al Oomoto, al ŝia Moŝto, s-ino Kurenai Deguĉi kaj al mia amiko, la reverendo Maeda pro la trafa kontribuo al niaj planoj cele al la estonteco.

Mi humile venas al vi, oomotanaj kongresanoj de la 91-a Universala Kongreso de Esperanto, por danki denove. Mi petas al Dio beni al vi ĉiuj kaj aparte al la Spirita Gvidantino de Oomoto, ŝia Moŝto, s-ino Kurenai Deguĉi.

La benojn de “Uŝitora-no-Kongĝin” por vi!

Kortuŝite de la Oomoto-movado mi fariĝis la unua
membro de la Amikaro de Oomoto Internacia en Brazilo

Lucas Yassumura

Brazilo

Delegito de UEA

Mi ĉeestis en la 41a Brazila Kongreso de Esperanto, kie mi estis ĝia ceremoniestro kaj unu el ĝiaj prelegantoj. Post mia prelego mi havis tempon por ĉeesti la prelegon kaj prezenton de Oomoto, kiun mi antaŭlonge volis ekkoni persone, ĉar mi jam estis kunlaboranto de EPA en 2005; sed mi neniam havis la oportunon ĉion koni, kion Oomoto reprezentas ne nur por Esperanto, sed por la monda paco ĝenerale.

Mi tute ne sciis, ke Oomoto estas tute ekumena religio, kaj ke ĝi apogas ĉiujn manifestaciojn por la paco, sendepende de la religioj aŭ doktrinoj de tiuj, kiuj aspiras pacon inter la homoj de nia mirinda mondo.

Mi havis la honoron konatiĝi kun s-ro Shigeki Maeda, s-ro Yasuharu Fujimoto, prof. Benedicto Silva inter multaj aliaj geamikoj de Oomoto. Kun ili mi havis belan momenton en la kongresa dimanĉo, kiam ili invitis min por ĉeesti en la renkontiĝo en loko fora de la kongresejo. Malgraŭ tio, ke mi ne estas iu gravulo de nia Esperantujo,

modeste mi akceptis la inviton, kaj mi ĝuis la vesperon kun ili.

Multe riĉa estis kaj estas ĉio, kion ili instruis al mi pri Oomoto, kaj mi estis kortuŝita de iliaj vortoj, de iliaj laboroj, kaj de la vortoj de via Spirita Gvidantino, la honora s-ino Deguchi Kurenai. Tiom kortuŝita mi ankoraŭ estas pro la belegaj oomotaj aferoj, ke mi tuj decidis fariĝi mem Amiko de Oomoto Internacia (AOI). Mian peton akceptis S-ro Shigeki Maeda.

Mi do skribas ĉi tiun mesaĝon por danki vin, reprezentanto de la nobla por-paca religio Oomoto, por permesi al mi koni vian mirindan laboron, kaj ankaŭ por gratuli vin pro la klopodoj, kiujn vi faras por nia komuna lingvo Esperanto.

Se eblos al mi, venontjare ĉeesti en la 92-a UK en Jokohamo, kaj se tio konkretiĝos, mi ja vizitos vian sanktejon en Ajabe.

Sekvu la laborojn por Esperanto kaj por la paco, karaj fratinoj kaj fratoj de Oomoto! La laboro estas certe malfacila, sed malfacilaj estas ĉiuj intencoj, kiuj celas la plibonigon de nia mondo. Nur la fortaj kaj obstinaj zamenhofoj sukcesas semi kaj semi, senlace kaj neflankiĝante. Mi vidas, ke vi oomotanoj estas veraj zamenhofoj, veraj Esperantoj.

通信添削模範解答

講師 裕 大福

2006年7月号問題

初級

- A . 次の文をエスペラントにしてください。
- 1 . それは何ですか。それはテーブルです。
 - 2 . これはリンゴです。それは甘いです。
 - 3 . そのスカートは青いです。
 - 4 . この前君が買った、その本を持ってきましたか。
- B . 次の文を日本語にしてください。
1. Nenio estas en la kesto.
 2. Neniu krom li estis en la insulo.
 3. Li neniam diris veron.
 4. Neniom da dubo mi havis tiam.

中級

A . 次の文を日本語に訳してください。

Tiam; "Nu, knaboj, mi estas soifega, kaj devos iri al la hotelo por trinketo; ĉar estas tre strange: nur la biero povas satigi soifon tian, kian mi nun suferas. Tion mi trovis; tion mi trovis. Do, iru vi al la marbordo, ĉar mi ne volas, ke vi ludu apud la falĉilo. Jen Dol Rua kaj la aliaj iras al la bordo nun". Efektive, kvar el la vilaĝaj knaboj samaĝaj kiel Kol kaj Jano iris laŭ la vojo, kiu preteriris la parcelon malsupren al la marbordo, kaj jam mansvingis al la du urbeganoj, ke ili venu akompane. Do ĝisinte la onklon, la du kuzoj alkuris la grupon, kiu nun staris atendente.

B . 次の文をエスペラントに訳してください。

モノが保存や展示のために博物館・美術館に送られるのは仕方のない場合があるが、モノ本来の場所に残して見せてくれる方が望ましい。たとえば宗教美術の場合、保存や防犯のために美術館に移され、収蔵・修復されて展示されることが多いが、本来の場所である教会で見ることが生き生きと見える。美術館の方が照明も明るく、きちんとしたキャプションもあって他の展示品との関係から美術史的な位置づけもよくわかる一方、教会の祭壇に飾られている絵は薄暗くてよく見えず、キャプションも説明もないが、その場合の方が観者に雄弁に語りかけてくれるのは間違いない。

(『みんぱく』2006年6月号より)

通信添削 2006年7月号の解答例

初級 A .

1. Kio estas tio? Tio estas tablo.
2. Tiu ĉi estas pomo. Ĝi estas dolĉa.
3. Tiu jupo estas blua.
4. Ĉu vi kunportis la libron, kiun vi aĉetis lastatempe?
5. Kion vi faris tiam.

- B. 1 . 箱の中には何もありません。
- 2 . 彼のほかには誰もその島にはいませんでした。
- 3 . 彼は決して真実を言ったことがない。
- 4 . その時は少しの疑いも持ちませんでした。
- 5 . あんな美人は世界中どこにもいません。

中級 A .

その時、「さあ、君たち、私は喉が渴いたのでホテルまでちょっと飲みに行かなくてはいけなんだ。なぜって、たいへん変なことなんだが、私は喉が渴くとビールでなくてはそれを癒すことができないんだ。そのことを私は発見したんだ、それに気がついたんだよ。じゃあ、君たちは海岸のほうへ行くといい。なぜって、君たちに草刈鎌の側で遊んでもらいたくはないからね。ほら、ドール・ルアやその他の連中も今、海岸のほうへ行っているよ」と言いました。

実際、コールやヤーノと同じ歳の村の少年のうちの四人は、一枚の畑の側を通り過ぎて海岸のほうへ下りていく道をたどって行きました。そしてもう、都会っ子の二人に手を振って、彼らについて来るように合図をしました。それで、おじさんにさよならを言って、二人のいとこは、立って待っている一団の少年たちのほうへ走って行きました。

B .

Iuokaze estas ne evitable, ke aĉj estas sendataj al muzeoj aŭ artaj muzeoj por konservi kaj elmontri ilin. Tamen estas pli bone taksate, ke oni restu kaj elmontru aĉjn ĉe ilia propra loko.

Ekzemple religiajn artaĉjn oni ofte translokigas ilin al artaj muzeoj por bone konservi, por defendi ilin kontraŭ krimoj, kaj ili fariĝas unu konservaĉj de la muzeo, kaj post la restauro ili estas elmontritaj. Tamen ili aspektas pli vivaj ĉe iliaj propraj lokoj, nome en preĝejoj. En muzeo oni pli hele lumigas ilin kaj oni aldonas al ili titolon, kiu instruas la interrilatojn kun aliaj elmontraĉj, kaj kiu instruas ilian lokon en la arta historio. Dum la bildon sur la altaro en preĝejo oni ne povas bone vidi pro la mallumeco, kaj ne havas titolon nek klarigon, tamen sendube tie ili pli multe alpaloras al la rigardantoj.

("Minpaku" junia numero de 2006)

解説

初級 A : 日本語で「それ」という場合、エスペラントではいくつかの単語に訳することになります。『tioは「それが何であるか、名前が何であるか分からないとき。総体的な事柄について述べるとき」の「それ」です。tiuは個別のものを指し示して「それ」というときに使います。tiuは複数形にして、tiuj「それら」という形でも使います。

ĝiは人称代名詞の第三人称の中性の単数の単語の代わりに「それ」と言って使います。人称代名詞で「鈴木さん」と言う代わりにliやŝiというように、pomo, domo, tabloなどの中性で単数の名詞の代わりにĝiを使います。

それでは、tiujを「それら」というときと、iliを「それら」というときは、どう違うのかというと、「それ」の場合のtiuとĝiとの違いと同様で、tiujは個別に区別できるものが複数あって、それらを指し示して言うときに使います。iliは人称代名詞で、男性、女性、中性のいずれの場合でも複数のときに使いますが、「それら」はとくに男性でも女性でもない中性の(ものである場合がほとんど)人称代名詞として使います。ひとつずつ「それと、それと、それと……」と言う代わりに「それら」と言う場合です。初級 B : nenio, neniŭ, neniĉj, neniom nenie は、その単語自体に否定の意味を含んでいますので、Nenio estas en la kesto. で否定文になります。

これにさらに、neをつけて、Ne nenio estas en la kesto. というと、「箱の中に何も無いわけではない」という意味になって、「箱の中には何かがある」ということになります。

中級A : mi ne volas, ke vi ludu apud la faĉlilo. は、初級の文法のところで出てきたと思いますが、voli (espero, deziro), ke -u の言い方です。Mi ne volas, ke vi ludu. は「私はあなたに遊んでもらいたくない」となります。

通信添削問題

2006年10月号の問題

初級 A . 次の文をエスペラントにしてください。

- 1 . 秋が終わると、冬が来ます。
- 2 . 冬の服は分厚いです。
- 3 . その湖は冬に凍ります。
- 4 . ローマの軍団はリヨンで越冬しました。
- 5 . 越冬地には、食糧がたくさん貯蔵されていました。

B . 次の文を日本語にしてください。

1. Sufiĉa salajro ebligis lin vojaĝi tra la mondo per ŝipo.
2. Li klarigis la mekanikon de trombo sufiĉe bone.
3. Sufiĉo da amo donis al ŝi kvieton.
4. Sufiĉi estas bone.
5. Tio sufiĉas por li vivi sola.

中級 A . 次の文を日本語に訳してください。

"Jes", respondis Jano retireme, ĉar la kvietaj ĝentilo de la iom pli aĝa knabo ĉiam imponis lin. "Mi alvenis hieraŭ, kaj restos monaton".

"Jes, jes, kompreneble. Bone, bone! Kaj kion vi portas tie, Jano?" Li emfazis la propran nomon laŭ la naminero de gaelo parolanta la anglan. "Ĝi estas rano. Mi ŝatas ranojn; ranoj estas bonaj", respondis Jano rapide, ĉar li konis la morojn de la vilaĝaj knaboj rilate kaptitajn bestojn.

B . 次の文をエスペラントに訳してください。

1863年10月26日、ロンドンのパブ(居酒屋)「Freemason's Tavern」でルールが統一され、フットボール協会(F A)が創立された。イギリスには、イングランド、スコットランド、ウェールズ、北アイルランド、4つのF Aがある。本家のイングランドのThe FAは、イングランド代表チームを結成し、また世界一の経営規模を誇るF Aプレミアリーグ(F A P L)を主催するが、国技として草の根レベルのサッカーにも力を注いでいる。(『民族学』2006年夏号より)

宛先 〒621-8686 京都府亀岡市天恩郷
エスペラント普及会 誌上講座通信添削係
(返信用封筒に切手を貼ってお申込み下さい)



Tacuo Huĝimoto:<<Felietone Feritone>>

Dia Insulo

Tiu insulo kuflas malproksime en la maro for de urbo Takasago, gubernio Hjogo. De la haveno de la najbara iom pli granda urbo Hime Δ , la 8-an de septembro 2006, eĉ pli ol mil personoj veturis pasaĝerflipe al la insulo. Oni devis dufoje veturigi la flipon po 500 pasaĝeroj proksimume. Tiuj venis el diversaj regionoj de la lando, precipe el la regiono Kansajo, en kiu troviĝas la sidejo de Oomoto. Dum la tridekminuta surmara veturado ili kune preĝis je la “Diaj Vortoj”, kiu estas iom longa, tiel ke la dua preĝado finiĝis ĝuste en la momento, kiam la flipo alvenis ĉe la insulo, kiu, cetere, ne estas loĝata, kun lumturo, ankaŭ senhoma. La insulo estas en la formo de renversita (profundeta) telero. Kutime la flipo ne cirkulas inter la haveno kaj la insulo, ĉar temas pri la senhoma insuleto.

Oomoto havis tiutage la 90jaran jubileon de la t.n. “malkovro aŭ malfermo de la dia insulo”. Ĝi kuflas en la direkto de sudokcidento, nome en la kontraŭa direkto de nordoriento, ambaŭ konataj kiel “Ograj pordegoj”, sekve abomenataj en la orientazia kulturo.

Nordoriente troviĝas Ajabe, la naskiĝloko de Oomoto, kie en la jaro 1892 la fondintino matrono Nao Deguĉi estis di-posedata de la Ora Dio de Nordoriento. Poste, la kunfondinto majstro Onisaburo Deguĉi vizie vidis la formon de la dia insulo. Kaj, laŭ tio, oni trovis kaj destinis ĝin unu el la sanktaj lokoj de Oomoto. Tie, dum jarmiloj, loĝis la



藤本達生の『続きもので読みもので』

神島

その島は兵庫県高砂市のはるか沖合にある。隣の、少し大きな姫路市の港から、2006年9月8日、1000人を超す程の人びとが客船で島に渡った。およそ500人ずつ2便が運航された。それらの人たちは、国内各地、特に大本本部がある関西からやって来た。30分の海上の旅の間に、この人たちは「神言」を奏上した。神言はいささか長くて、ちょうど2度目の奏上が終わった時に、船が島に到着したのだった。ちなみに、ここは無入島である。灯台はあるが、それも無人である。島は、やや深めの皿をひっくり返した菰をしている。いつもは、無人の小島のことだから、船は通っていない。

大本では、この日、いわゆる「神島開き」の90周年を迎えた。島は西南（坤）の方角、つまり東北（艮）の反対側にあり、いずれも「鬼門」として知られ、したがって東アジアの文化においては、忌むべき方角となっている。

東北には大本発祥の地、綾部があり、ここでは1892年、大本の開祖、出口なお刀自が帰神された。懸かれたのは「艮の金神」であった。のちに、出口王仁三郎聖師の霊眼に神島の姿が映った。それによって、島が発見され、大本の聖地のひとつと定められた。ここに、数千年にわたり、艮の金神にも似て、妻神である「坤」の神が住まわれていた。

大本では、毎年、高砂市から神島を遥拝することになっている。そして、10年ごとに現地で祭典が行われる。それで今年、これだけ多くの参拝者があったのである。



Tacuo Huĝimoto:<<Feliĉone Feritone>>

diedzino de sudokcidento, simile al la Ora Dio de Nordoriento.

Ĉe Oomoto oni havas la kutimon ĉiujare “preĝi de lontane” en la urbo Takasago. Kaj ĉiun dekan jaron oni plenumas la koncernan riton surloke, tial tiom da piaj pilgrimantoj ĉi-jare.

Iun tagon, verŝajne en aŭgusto, oni telefone demandis min, ĉu mi foje estis en la dia insulo; mi respondis, ke ne; tiam la sinjorina voĉo diris, ke oni nun rekomendas la adorviziton tien al tiaj personoj, kiuj neniam estis en la dia insulo.

Kial rifuzi tiel afablan inviton? Mi do kaptis la bonan okazon. De la provizora kajo ĉe la insulo ni supreniris laŭ ŝtuparo sur la monteton, kie, en malvasta spaco, la jam alvenintaj svarmis. Mi tuj rezignis okupi la interpinan loketon por observi la iradon de la festa rito ĉe la kunmetita altaro.

Feliĉe, iom fore de la altaro mi trovis ombron, kaj tie nur aŭskultis la sonorajn voĉojn de la Kvina Spirita Gvidantino, ŝia moŝto Kurenai Deguĉi kaj tiujn de la diservantoj. Kompreneble, ankaŭ pilgrimantoj povis partopreni en la komuna laŭtpreĝo de la diaj vortoj. Inter la pinarboj ni lunĉis el skatolo, kiun ni ricevis jam en la haveno. De la monteta supro ni havis belan panoramon al la “Enlanda Maro” kun irantaj ŝipoj, kaj ankaŭ al la urbo Osaka dekstre.

La tago estis aŭtuna, serena kaj belega. Kiam ni veturis revene al Kameoka mikrobuse, subite pluvegis minutojn antaŭ la reveno en la Centro. Mil dankojn al ĉiuj prizorgantoj por la grava tago!

たしか8月のある日、私に電話で問い合わせがあり、神島に参拝されたことがありますか、とのことであった。私が、ありませんと応えると、女性の声で「神島参拝をされたことがない人たちに、いま、おすすめしているのですが…」と言われた。

このように親切なお招きを、拒む理由があろうか。私は、この良き機会をとらえることにした。島の仮の船着場から、私たちは階段を伝って昇り、小山に着いた。そこでは、狭いスペースに、すでに到着した人たちが、たくさんいた。私は、組み立てられた祭壇の所で祭典の進み具合を見守るために、松林の間にちょっとした場所を取ることは、すぐに諦めた。

幸い、祭壇からやや離れたあたりに陰を見つけた。そうして、五代教主出口紅さまのよく通るお声と祭員たちの声に耳を傾けた。もちろん、参拝者たちにも出番はあって、一同、神言奏上に参加した。松林の中で、すでに港で配られていたお弁当の直会を頂いた。小山の頂上からは船の行き交う瀬戸内海へ、右手には大阪へも、美しい展望が得られた。

この日は秋晴れの見事な天気で、マイクロバスが亀岡の大本本部に帰着する前の数分間、急に大雨が降った。この大切な日のために、ご尽力くださいました皆さま、どうもありがとうございました。

EPA 事務局便り

EPA 講師一覧 (あいうえお順)

1	吾郷 孝志	30	高瀬 順亮
2	井頭 ますみ	31	高野 春樹
3	江川 治邦	32	竹原 如是
4	伊藤 欽介	33	田中 雅道
5	大久保 良	34	田平 正子
6	大和田 さち	35	田淵 八洲雄
7	奥原 能	36	出口 京太郎
8	奥脇 俊臣	37	長井 順一
9	鬼塚 義彰	38	長井 小文
10	加賀見 明男	39	中野渡 光昭
11	筧 邦麿	40	中原 榮子
12	鹿子木 旦夫	41	中村 勲
13	Charles Rowe	42	西永 篤史
14	川地 善則	44	西野 祥隆
15	川村 泰範	45	碓 大福
16	木野 榮二	44	平井 淳
17	木村 且哉	46	平岡 康
18	牛腸 三春	47	平野 清享
19	後藤 純子	48	藤代 和成
20	小林 正幸	49	藤本 達生
21	小藪 資史	50	前田 茂樹
22	斉藤 延	51	松田 一
23	斉藤 泰	52	松永 梅男
24	坂下 正昭	53	松本 公夫
25	坂本 弓代	54	村田 孝子
26	塩崎 温美	55	森下 峯子
27	塩谷 誠	56	矢野 裕巳
28	Joel Brozovsky	57	山本 鳩江
29	曾田 美喜子	58	Rikardo Newsum

講師の方で上の一覧表に掲載されていない方はお手数ですが、EPA 事務局までご連絡下さい。

FAX: 0771-25-0061 e-mail: officejo@epa.jp

亀岡天恩郷・郷内講座のご案内

月曜日 木村且哉 rudimenta
(Kacuja KIMURA)
入門・初級クラス



火曜日 小藪資史 rudimenta
(Motofumi KOJABU)
入門・初級クラス



水曜日 松本公夫 rudimenta
(Kimio MACUMOTO)
入門・初級クラス



水曜日 川地善則 komencanta
(Jošinori KAŬĀĈI)
初級クラス



木曜日 平岡 康 rudimenta
(Jakkun HIRAOKA)
入門・初級クラス



木曜日 鬼塚義彰 rudimenta
(Jošiaki ONICUKA)
入門・初級クラス



金曜日 奥脇俊臣 paroliga
(Tošiomi OKUŬAKI)
初級クラス



金曜日 西永篤史 paroliga
(Acuši NIŜINAGA)
会話クラス



金曜日 大和田さち rudimenta
(Sači OOŬADA)
入門・初級クラス



2006年1月より亀岡天恩郷の郷内講座は、参加費はそのまま月曜～金曜日までのどのクラスでも「いつでも何回でも受講し放題！」となりました。

遠近各地からのご参加を講師一同、心からお待ちしております。

(受講ご希望の方は事務局まで)



Lasu al mi ion diri !

読者の皆様からの声を募集しています!

近況報告、提案、呼び掛け、面白いニュース、本誌への要望、写真等、なんでもけっこうですので、どしどし事務局までお送り下さい。実名、匿名、リングネーム、なんでもo.k.です!

EPA 事務局便り

第 93 回日本エスペラント大会（岡山市）EPA 関連行事ご案内

日時：2006 年 10 月 7 日（土）～ 9 日（月・祝）

主会場：岡山コンベンションセンター

副会場：岡山県国際交流センター

テーマ：「百年の歴史から新しい展開を」

・大会記念シンポジウム「全国組織を考える」(10/9 9:15-11:15)で、三好鋭郎 EPA 常務理事が基調講演を行います。

・分科会「岡山とエスペラント」(10-9 9:15-10:45)で、岡山にゆかりの深いエスペランチストの一人として、出口日出麿大本三代教主補師が取り上げられ、鹿子木旦夫 EPA 理事長がパネラーの一人として発題します。

・大会期間中には、EPA から刊行されたばかりの「藤本達生の初等文法教室」のサイン会が行われます。ふるってご参加ください。

第 92 回世界エスペラント大会（横浜）の参加申し込みについて

2007 年 8 月 4 日～ 11 日、第 92 回世界エスペラント大会が横浜市で開催されます。

今月号に同大会案内書（Unua Bulteno）と大会参加申込書（Aliĝilo）を同封します。

申込書と同時に参加費を払い込む必要があります。世界エスペラント協会（UEA）の会員であれば会員扱いの参加費が適用されます。未会員であっても、参加申し込みと同時に UEA に入会するとその特典を受けることができます。

不明な点は、日本エスペラント学会
(〒162 - 0042 東京都新宿区早稲田町 12 - 3

電話：03 - 3203 - 4581

FAX：03 - 3203 - 4582

メール（esperanto@jei.or.jp）にお問い合わせください。

EPA 認定級試験合格者

平成 18 年 8 月 24 日付 交付（国際部にて実施 H18.8.24）

Unua 1 級 柴田 ひな Hina Ŝibata 北海道

Bonvenon al Oomoto! (ようこそ大本へ!)

< 第1報 >

第92回世界エスぺラント大会(横浜)後の
エスぺラント国際行事開催のご案内
(EPA、大本本部、人類愛善会)共催

期間 2007年8月12日(日)～14日(火)

テーマ Bonvenon al Oomoto! (ようこそ大本へ!)

開催主旨:2007年8月4日～11日まで横浜市で開催される第92回世界エスぺラント大会後に、これまで長らく大本と交流のあった欧州、アジア、南米など各地域のエスぺランチストを両聖地へ迎えて、大本講座や大本歌祭などの行事を通して大本活動の紹介や、今後の国際活動への協力を呼び掛けるための親睦を深める。

共催 大本本部、人類愛善会、エスぺラント普及会

参加者 国外のエスぺランチスト60人

メイン会場 綾部市大本本部梅松苑

参加費(8月12日朝食～14日昼までの食費・宿泊費など含める)

*一般コース(50ユーロ=7,500円)松香館、その他の大本本部の宿泊所利用

1部屋3人から、最大10人程度の大部屋に宿泊する場合もあり得る。

2006年以内に申し込みの方は、40ユーロ=6,000円(割引料金)

2007年4月末以降の申し込みの方は、60ユーロ=9,000円

*綾部ホテルコース(綾部市内のビジネスホテルで宿泊希望の方に斡旋)

申し込みは2007年2月末日までで、それ以降は予約が不可能な場合あり。

1人部屋	1泊朝食付き 7,000円の3日分	14部屋
2人部屋	1泊朝食付き 12,000円の3日分	7部屋
デラックス1	15,000円の3日分	1部屋
デラックス2	18,000円の3日分	1部屋

Bonvenon al Oomoto! (ようこそ大本へ!)

プログラム予定

8月11日(土)

- 19:00 受付 於:松香館/綾部ホテル
- 20:00 みろく踊り
- 21:00 自由懇談

8月12日(日)

- 06:00 朝拝、朝食
- 08:00 苑内参拝
- 10:00 開催奉告祭 於:長生殿/能舞台
- 11:00 祭典後の行事
- 12:30 記念写真(玄関)
昼食
- 13:30 大本紹介(ビデオ/講話) 於:松香館
「大本とは、人生の目的、霊界観、人類愛善思想と万教同根」
- 15:30 「大本歌祭の意欽と短歌の作り方」
- 17:00 夕拝
- 18:00 浴衣の着付け
- 19:00 みろく踊り大会
- 21:00 大会終了
- 22:30 宿泊 於:松香館/綾部ホテル

8月13(月)

- 06:00 朝拝/巡拝、朝食
- 08:00 日本伝統文化の紹介と体験講座(茶道、書道、仕舞、華道、
武道、折り紙など)
- 11:30 昼食
- 13:00 大本歌祭の解説
- 14:00 大本歌祭(エスペラント版) 於:長生殿
- 17:00 夕拝、夕食
- 19:00 みろく村見学
- 21:00 自由懇談
宿泊 於:松香館/綾部ホテル

8月14(火)

- 06:00 朝拝、朝食
- 08:00 講話「みろくの世へのロードマップ」(大本/人類愛善会活
動への誘い)
- 09:30 質疑応答
- 10:00 閉会奉告祭
祭典後の行事
- 11:30 昼食 (Gis la revid&解散)

Bonvenon al Oomoto! (ようこそ大本へ!)

La 1-a Informilo

Bonvenon al Oomoto en 2007!

<De la 12-a ĝis la 14-a de aŭgusto, 2007, en Ajabe >

Aliĝnotoj

Titolo de la evento: Bonvenon al Oomoto en 2007!

Dato: De la 12-a (mateno) ĝis la 14-a (tagmezo) de aŭgusto en 2007

Aliĝnombro: 60 kromjapanoj

Loko: La Centra Oficejo de Oomoto, Ajabe en Kioto (Bajŝoen, Ajabe-ŝi, Kioto-hu, 623-0036, Tel: 0773-42-0187 Telefakso: 0773-43-0220, Ĉirkaŭ 80 kilometrojn nordokcidente de la urbo Kioto)

Aliĝkotizo: (inkluzive de la kostoj por 8 manĝoj kaj 2 tranoktoj en Oomoto)

A-kategorio=50 eŭroj por 1 persono

Tranoktejo: Oomota dormejo japanstila, unu ĉambro por 3~10 personoj

B-kategorio=40 eŭroj nur por la aliĝintoj antaŭ la fino de la jaro 2006

Tranoktejo: Oomota dormejo japanstila, unu ĉambro por 3~10 personoj

C-kategorio=60 eŭroj nur por la aliĝintoj post la fino de aprilo en 2007

Tranoktejo: Oomota dormejo japanstila, unu ĉambro por 3~10 personoj

D-kategorio=15 eŭroj escepte de 2 tranoktaj kostoj

EPA peros porkomercistan urb-hotelon ekster Oomoto (ĉ. 20 minutojn per piedoj for de Oomoto: (A)1-lita,(B) 2-lita,(C)luksaj ĉambroj estas disponeblaj laŭ la hotela tarifo:

Bonvenon al Oomoto! (ようこそ大本へ!)

1 nokto por 1 persono, inkluzive de matenmanĝo
=13,000~18,000 enoj)

Tiuj povos esti ne rezerveblaj post la fino de februaro en 2007,
kaj post la fino de julio ne eblas malmendi la rezervon.

Aliĝmaniero: Bonvolu kontakti kun Esperanto-Populariga
Asocio(EPA)

Tenon-kjo, Kameoka-ŝi, Kioto-hu, 621-8686 Japanio
Telefono:+81-771-23-2145 Telefakso: +81-771-25-0061
Retpoflto: oficejo@epa.jp

Trajto de la Programo

(La 11-an de aŭgusto)

7 ptm: Akcepto, Miroku-danco(folklora danco); interkonatiĝo

(La 12-an de aŭgusto)

10 atm: Malferma ceremonio; 1 ptm: Prezento pri Oomoto;

3 ptm: Prezento kaj praktiko pri japanaj tradiciaj artoj (te-
ceremonio, kaligrafado, floraranĝo, ŝimajo, batalartoj,
paperfaldarto); vespere: Kiel vesti sin per japanaj someraj
vestoj? Kune dancu en la rondo de la Miroku!

(La 13-an de aŭgusto)

8 atm: Prezento kaj praktiko pri japanaj tradiciaj artoj; 1ptm:

Lekcio pri "kio estas la celo de la Uta-festo de Oomoto?"

Ĉeesto en la Uta-festo de Oomoto; vespere: Vizito al la vilaĝo
Miroku, kie oni aprecas la faradon de tebovjoj, teksadon k.a.;
invito al la te-domo

(La 14-an de aŭgusto)

8 atm: Lekcio pri la vojmapo cele al la Miroku-mondo; 10

atm: Ferma ceremonio; 11:30 atm: Adiaŭa lunĉo: Ĝis la
revido!